

古代から近世まで「成人の儀式」の移り変わりをたどる

ミニ電子展示「**成人の儀式—古代から近世まで—**」公開

お手元のスマートフォン等からどなたでもご覧いただけます

国立国会図書館は令和4年4月14日に、ミニ電子展示「本の万華鏡」第31回「成人の儀式—古代から近世まで—」を公開しました。

サイトでは昔の成人の儀式について、公家・武家・庶民の3部構成でご紹介します。徳川家康や源義経など歴史上の有名人物の「成人」にまつわるエピソードや、『栄花物語』『落窪物語』をはじめとする文学作品も盛り沢山です。

「元服」という言葉は聞いたことがあっても実際どのようなことをするのか、あまりイメージが湧かない方も多いと思います。また、女性の元服に当たる「裳着（もぎ）」の儀式については初めて聞くという方も少なくないでしょう。

この機会に日本の成人の儀式の歴史をたどってみませんか？



URL: <https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/31/>

■ 報道機関の方のお問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 総務課 広報係 03-3506-5103 (直通)

■ご覧いただける資料の一部（サイト上でより詳細な画像をご覧いただけます。）

『栄花物語』における女性の元服「裳着」



平安時代に書かれた『栄花物語』には禊子（ていし）内親王の裳着の様子が描かれています。裳着では裳（下袴）を初めて身に着け、成人したことを示します。

儀式は遅い場合で午後8時から10時、ときには真夜中1時ごろまでかかることもあり、当時、数え11歳だった禊子内親王がしきりに眠そうにしている様子が作中に描かれています。

出典：『栄花物語 40巻』10, 元和寛永頃【WA7-126】

徳川家康の元服と改名

元服をむかえると幼名を改めて実名と呼び名（通称）を授かります。徳川家康は幼名を竹千代、元服後の名前を元信といたしました。「元信」の「元」は、当時人質として暮らしていた今川家当主、今川義元の一文字を与えられたもので、義元との主従関係を意味しました。後に家康と名前を改めますが、「元」の字を変えた事は、名実ともに今川家と決別したことを象徴しています。

出典：野村文紹『肖像』1之巻【か-75】



双六にみる江戸時代の女性の成人



江戸時代の女性の誕生から結婚までを表した双六です。「元服」のマスにはお歯黒をする様子が描かれています。元々は成人のしるしとして行われていましたが、江戸時代には婚礼に合わせて行われるようになりました。

出典：「奥奉公二偏娘一代成人双六」『双六』【本別 9-27】



本の万華鏡

「化粧」「百貨店」「恋文」「和菓子」「温泉」など、31のテーマで、国立国会図書館の蔵書を紹介しています。

URL: <https://www.ndl.go.jp/kaleido/>

■報道機関の方のお問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 総務課 広報係 03-3506-5103（直通）